

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	地域振興対策事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－ア		
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	観光誘客を図るため、「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」及び「与那国島一周マラソン大会」への支援を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,950	9,000	6,200	10,000	10,000	
		(b) 予算現額	6,581	6,200	11,780	10,000	10,000	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,369	▲ 2,800	5,580	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	6,581	6,200	11,780	10,000	10,000	
	B. 執行済額		6,581	6,200	8,100	10,000	10,000	
	うち交付金充当額		5,265	4,960	6,480	8,000	8,000	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	68.8%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	カジキ釣り大会の補助(7月)	目 標	(カジキ釣り大会の 実施)	(カジキ釣り大会 の実施)	(カジキ釣り大会 の実施)	(補助の実施)		
		実 績	カジキ釣り大会の実 施	カジキ釣り大会の実 施	カジキ釣り大会の実 施	補助の実施		
	一周マラソン大会の補助(11月)	目 標	(一周マラソン大会 の実施)	(一周マラソン大 会の実施)	(一周マラソン大 会の実施)	(補助の実施)		
		実 績	一周マラソン大会の実 施	一周マラソン大会の実 施	一周マラソン大会の実 施	補助の実施		
達成 状況 説明	①「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」は、実行委員会への補助の実施により大会内容の充実が図られたことにより、参加者数が増加し一般の観光客においても満足出来るイベントが開催できた。 ②「日本最西端与那国島一周マラソン大会」は、実行員会への補助実施により大会内容の充実が図られたことにより、入域観光客数増へ繋がり、参加者も636名と昨年に比べ12.5%増となった。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	イベント開催月入域観光客数 カジキ釣り大会(7月)	目 標	()	(2,400人)	(3,000人)	(3,000人)	()	
		実 績		2,774人	2,734人	2,778人		
	イベント開催月入域観光客数 一周マラソン大会(11月)	目 標	()	(3000人)	(3,500人)	(3,500人)	()	
		実 績		3,683人	3,458人	3,655人		
	【参考指標】 カジキ釣り大会参加者 一周マラソン大会参加者	目 標	()	(110人) (700人)	(110人) (800人)	(110) (800)	()	
		実 績		(113人) (703人)	(94人) (565人)	(132) (636)		
進捗 状況 説明	「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」においては、お手軽に参加できる種目の需要があり磯釣りなどの参加者数が伸びた。また最終日に打上花火を行うことで観光客等の滞在時間の長期化を促進することができた。成果目標としてあげていた入域観光客数はカジキ釣り大会の開催月である7月において、目標3,000人に対し実績2778人と目標には届かなかったが、去年に比べ若干数増加している。 「日本最西端与那国島一周マラソン大会」においては、島内への参加呼びかけを積極的におこない、参加者数は目標数値に届かなかったものの昨年に比べ12.5%増加した。マラソンの開催月である11月の入域観光客数は目標3,500人に対し実績3655人と目標値を達成した。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」においては、参加者数の増を図る必要がある。 ・「与那国島一周マラソン大会」においては、県内参加者の割合が多く、県外参加者が少ない。また、今大会においても宿泊施設が足りず、公共施設を有料開放したが、公共施設の利用についての広報が不足していた。	・「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」においては、トローリングの部は受け入れ可能な漁船に限りがあるため参加者数の増加が難しい状況がある。今後はトローリングの部以外の参加のハードルを下げ、与那国へ釣りを目的として来る来島者の入り口となるような大会を目指し取り組む。 ・「日本最西端与那国島一周マラソン大会」においては、県外への参加呼びかけと公共施設利用についての広報を積極的に行い、参加人数増加へ向け取り組む。
今後の取り組み方針		
・釣りへの参加のハードルを下げる工夫が必要で、低予算で釣りの体験ができ、与那国へ釣りを目的として来る来島者の入り口となる大会を目指す。 ・県外へのマラソン大会のPR活動もより積極的に取組み、大会参加者の増加の促進につなげる必要があるほか、与那国島での大会参加者の宿泊先や受け入れ体制について、ホームページなどで詳細を公開するなどし、宿泊先が決まらず参加ができていない方の参加を促進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,000	10,000	8,000	2,000	0

与那国町
10,000千円

補助金
10,000千円

第28回日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会実行委員会補助金
(第28回日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会に係る補助金
需用費、)

第25回日本最西端与那国島一周マラソン大会実行委員会補助金
(第25回日本最西端与那国島一周マラソン大会に係る補助)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○カジキ釣り大会及び一周マラソン大会実行委員会からの補助金交付申請により事業内容を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	与那国島特産品アピール力強化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（12）－ア		
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施（予定）年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	離島地区であり、日頃より触れる機会の少ない与那国町の特産品の良さを知ってもらう為に、県内及び県外の物産展への出展及び効果的な販売方法についての講習会を行い、県内及び県外への販路開拓を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,500	4,500	4,500	7,286	8,000	
		(b) 予算現額	2,160	3,045	4,500	7,286	8,000	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,340	▲ 1,455	0	0	0	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計 (b+d)	2,160	3,045	4,500	7,286	8,000	
	B. 執行済額		2,160	3,045	3,408	5,542	5,122	
	うち交付金充当額		1,728	2,436	2,726	4,433	4,097	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％） (B/A)		100.0%	100.0%	75.7%	76.1%	64.0%	
予算の状況の説明		不用額が2,878千円発生しているが、与那国一周マラソン大会に併せて企画したスタンプラリーの経費削減や事業事務支援のための臨時職員の確保が出来なかったことによる。また、県外物産展における経費を適正な範囲に見直したこともあり当初予算に対する執行率が下がった。しかしながら、事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	
	講習会の開催、特産品の県内及び県外の物産展への出展 講習会4回	目 標	(講習会開催4回)	(講習会開催4回)	(講習会開催4回)	()		
		実 績	講習会開催4回	講習会開催4回	講習会開催3回			
	講習会の開催、特産品の県内及び県外の物産展への出展 県内出展1回、県外出展1回	目 標	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	()		
		実 績	県内出展1回	県内出展1回 県外出展1回	県内出展1回 県外出展1回			
	達成状況説明	・10事業者に対して3回（当日指導含む）ブランディングに必要なマーケティング知識及びレイアウト技術についての講習会を実施した。その講習の成果を沖縄本島で行われる“2017離島フェア”、そして2回目となる県外物産展である“与那国フェアinららぽーと横浜”で生かし、与那国自体のブランディングを行った。講習会回数が減になった理由としては1回の講習会に充てる時間を長くとったことで全体的な講習会の時間割を変更したことによるものである。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（30年度）
	販売促進及びPRの向上、物産展出展による特産品販路拡大 物産展出展数：13事業者	目 標	()	(出店事業者数12業者)	(出店事業者数12業者)	(出店事業者数13業者)	()	
		実 績		出店事業者数10業者	出店事業者数8業者	出店事業者数10業者		
	【H30成果目標】 参加した物産展における与那国島産品の売上高：180万円以上	目 標					180万円	
	進捗状況説明	事業者の都合により当初計画の目標値より3業者少ない10業者になったが、“与那国フェアinららぽーと横浜”においては開催日数を1日伸ばし昨年の18%増の売上となった。 与那国町では特産品を取り扱う事業者はいるものの、その特産品を実際販売するノウハウは乏しいのが現状である中で今回の事業を実施することによって販売へのスキルアップができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・継続して本事業に参加している業者に関しては、共通の課題設定が難しくなっており、それぞれの事業者からの課題の拾い上げが必要な段階に来ていると思われる。また講習内容が事業者の求める内容にそぐわない為、参加に積極的になれない事業者がいたことにより成果目標の13事業者の参加を達成することができなかったと思われる。 ・事業者の共通課題として、新たな販路開拓の機会として物産展の場を活用できていないなどの課題を確認した。	・島内事業者の全体的なブランディングを図るため共通の課題を優先的に講習会で取組んできたが、今後は、大枠の課題を販路開拓としつつ、事業者ごとの課題を深掘りした細かな指導体制の展開を検討し、より多くの事業者の参加を促し成果目標の達成を目指す。 ・物産展を活用し、新規販路開拓を目的とした商談の場を設ける。
今後の取り組み方針		
・きめ細かな支援を実現するため、共通の題材をテーマとした講習会ではなく、各事業者の課題に焦点を当てた面談式の講習会にし事業者のスキルアップを図る。 また各事業者の課題に合わせた内容とすることで成果目標である参加事業者数を増やす事へとつなげる。 ・物産展と平行して商談会の機会をセッティングし、新規販路開拓を目的とした商談の場を設け、更なるスキルアップのための取組を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,122</td><td>5,122</td><td>4,097</td><td>1,025</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 5,122千円 補助金 5,122千円 与那国町商工会 5,122千円 町内事業者向け講習会の開催等に係る補助及び県内外出展に係る補助金					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,122	5,122	4,097	1,025	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,122	5,122	4,097	1,025	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先は、島内で当事業を実施できる唯一の組織であることから妥当であると考える。 ○不用額があったものの、ほぼ適正規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町								
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	1-④	与那国町観光地整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－ア			
				観光リゾート産業の振興					
担当部課名	総務財政課 交流推進班	事業実施 (予定)年度	平成29～30年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)			
事業内容	利便性と安全性が確保された観光地を提供し観光客等が安心して利用できる環境を整備するため、既存の「サンニヌ台」(景勝地)の整備を実施する。								
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(31年度)								
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()								
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	15,000						
		(b) 予算現額	9,180						
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 5,820						
		(d) 繰越額	0						
		A. 計 (b+d)	9,180						
	B. 執行済額		9,180						
	うち交付金充当額		7,344						
	次年度繰越額		0						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%						
	予算の状況の説明		入札残が発生したことにより、12月補正で予算額5,820千円を減額した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況						
				29年度	30年度	31年度	32年度		
	・測量設計の実施	目 標	(測量設計の実施)	()	()	()	()		
		実 績	測量設計の実施						
		目 標	()	()	()	()	()		
		実 績							
	達成 状況 説明	・当初の計画通り、サンニヌ台の測量設計を完了した。							
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (31年度)
		・測量設計の完了	目 標	()	(測量設計の 完了)	()	()	()	()
			実 績		測量設計完了				
【H31成果目標】 利便性と安全性が確保されたか(80%以上) を含め、景勝地の整備について観光客等 へのアンケートで検証する。		目 標						80%	
		進捗 状況 説明	・測量設計完了に伴いH30年度に整備工事を実施する。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・沖縄県景勝地に指定されていることから、文化財保護関係機関との調整が必要である。	・測量設計完了に伴い関係機関（沖縄県教育委員会）との調整（強化申請等）をH30.8頃までに行う。
今後の取り組み方針		
・関係機関との調整を踏まえ、H30年度は作成した設計書により、整備工事を実施する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
与那国町 9,180千円 委託費 9,180千円 株式会社大知企画 コンサルタント 9,180千円 ・サンニヌ台測量設計業務委託 <table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr><tr><td>9,180</td><td>9,180</td><td>7,344</td><td>1,836</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	9,180	9,180	7,344	1,836	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
9,180	9,180	7,344	1,836	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札にて選定されており、妥当であったと考えている。 ○入札残による予算減額はあったが、ほぼ適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤		与那国町多言語観光案内サイン整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（12）－ア		
						観光リゾート産業の振興		
担当部課名	総務財政課 交流推進班		事業実施（予定）年度	平成29～30年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		
Ⅲ－1－（1）								
事業内容	外国人観光客の利便性の確保を図るため、多言語観光案内板を整備する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（31年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,644					
		(b) 予算現額	10,644					
		(c) 増減額（b-a）	0					
		(d) 繰越額	-					
		A. 計（b+d）	10,644					
	B. 執行済額		10,530					
	うち交付金充当額		8,424					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）（B/A）		98.9%					
予算の状況の説明		予算は、計画のとおり執行されており適正な予算規模であった。不用額114千円は入札残によるものである。						
活動目標（指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	・既存観光案内板32基の内16基を多言語案内による観光案内板として整備する	目 標	（ 16基整備 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	16基整備完了					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成状況説明	・既存案内板16基を多言語観光案内サイン板として整備した。							
成果目標（指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（31年度）
	・多言語案内による観光案内板の整備16基	目 標	（ ）	（ 16基整備 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		16基整備完了				
	【H31成果目標】 利便性が確保されたか（80%以上）を含め、多言語案内板の整備について観光客等へのアンケートで検証する。	目 標					80%	
	進捗状況説明	・既存案内板32基の内16基の整備を完了した。今後は残り16基の整備完了に取り組む。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・32基の整備が完了次第、多言語観光案内サイン板が利便性の向上につながっているか効果を計り、今後の町の観光振興に役立てる必要がある。	・多言語観光案内サイン板の事業効果を検証するため、アンケートを実施する。
今後の取り組み方針		
・平成30年度において残り16基の多言語観光案内サイン板の整備をするとともに、観光客等へのアンケートを行い事業効果を検証する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,530	10,530	8,424	2,106	0

与那国町
10,530千円

委託費
10,530千円

株式会社ネオ・プランニング
10,530千円

・与那国町多言語観光案内サイン設置
業務委託

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札にて選定されており、妥当であったと考えている。 ○不用額はあったものの入札残によるものであり適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥	海底景観資源調査事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（12）－ア		
	与那国町教育委員会 教育課			事業実施 （予定）年度	平成29～31年度	観光リゾート産業の振興		
担当部課名					沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）		
事業内容	海底地形の観光資源化等に向け、測深調査を実施して、精密地形図の基になるデータを取得する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（32年度）							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	11,700					
		(b) 予算現額	11,700					
		(c) 増減額（b-a）	0					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計（b+d）	11,700					
	B. 執行済額		11,700					
	うち交付金充当額		9,360					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）（B/A）		100.0％					
予算の状況の説明		当初計画のとおり委託を適正に執行した。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	マルチビーム測深調査（3平方km×6箇所）	目 標	（ 18平方km ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	16.3平方km					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績						
達成 状況 説明	18平方kmの測深を活動目的として設定したが、これは調査期間中に風（波高1m程度）が2週間以上継続することが前提であった。実際の調査の実施に当たっては、予想不可能な気象条件を考慮し、協議の上、仕様書の測深面積を合計12平方kmとし、この数値は達成している。なお、天候に恵まれたことにより可能な限り測深面積を拡大し、最終的には7箇所、16.3平方kmを連続して測深することができた。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29活動目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （32年度）
	海底精密地形図の基になるデータの取得	目 標	（ ）	（ 測深データの取得 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		測深データの取得				
	【H32成果目標】 作成した海底地形図を活用したグラス ボートツアー等の参加者数	目 標						3,100人
	進 捗 状 況 説 明	与那国島の海底景観観光の中心となっている南東岸～南岸について、マルチビーム測深を実施し、計16.3平方kmの測深データを取得した。結果として、東海岸のサンニヌ台沖（軍艦岩沖）～西崎（久部良漁港入口）までの与那国島南海岸を連続して測深したが、島の約半周の海岸線を連続して精密なマルチビーム測深を行った事例は、琉球列島における科学的な測深調査では初めてのことである。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(気象条件等) ・天候の急変、台風等の気象条件により、調査船の運行ができない可能性があることを考慮し、調査計画を立てる必要がある。 (調査船傭船) ・浅海域を航行する能力を有すること、外洋航行時に動揺が少ないこと、キャビン及び機材の設置場所を有すること等、測深に適した船舶を選定することに留意する。 (操縦者) ・浅海底を低速で長時間航行するため、操船に長け、調査海域を熟知した者を選定することに留意する。	(気象条件等) ・季節風等の予測できる気象条件を考慮した計画(調査エリア、時期)を立て、調査期間中は常に最新の気象情報を収集し、活動及び成果の目標達成に努める。 (調査船傭船) ・測深に最適な船舶を傭船するため、漁協所属、ダイビング業者所有の船舶について、十分な事前調査を行う。 (操縦者) ・業務内容の説明を十分に行ったうえで、選定する。交代要員をふくめ2名以上配置することが望ましい。
今後の取り組み方針		
(気象条件等) ・季節風の影響のない7～8月に調査を行うものとし、気象条件に恵まれた場合は目標面積に留まらず、今年度同様、範囲を拡大して調査を行う。 (調査船傭船) ・傭船の機能等の事前調査を十分に行い、本調査に必要な能力を有していることを確認する。 (操縦者) ・操縦者の技能等の事前調査を十分に行うとともに、複数人員の確保に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>11,700</td><td>11,700</td><td>9,360</td><td>2,340</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,700	11,700	9,360	2,340	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,700	11,700	9,360	2,340	0										
与那国町 11,700千円 委託料 11,700千円 国立大学法人九州大学 11,700千円 〔海底地形に関する調査研究に資するマルチビーム測深調査〕														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は測深だけでなく、海底地形を科学的に評価できる国内唯一の専門機関であり、本事業者でなければ、確実な対応、成果が期待できないことから、随意契約は妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	優良牛繁殖雌牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－エ 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策の強化		
担当部課名	産業振興課 農林水産班	事業実施（予定）年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（6）		
事業内容	農家の経営の安定化に向けて、子牛のブランド化を推進するため、与那国町の農業従事者団体に対して、優良繁殖雌牛購入費用の一部を支援する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,200	3,200	9,000	4,500	10,000	
		(b) 予算現額	3,449	6,222	7,500	8,964	15,000	
		(c) 増減額（b-a）	249	3,022	▲ 1,500	4,464	5,000	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計（b+d）	3,449	6,222	7,500	8,964	15,000	
	B. 執行済額		3,449	6,222	4,800	8,649	10,891	
	うち交付金充当額		2,759	4,977	3,840	6,919	8,712	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0%	100.0%	64.0%	96.5%	72.6%	
予算の状況の説明		当初計画していた、導入頭数20頭については予定どおり実施した。農家から10頭の追加の要望があり6月補正で予算額5,000千円を増額したが、4頭の導入に留まり不用額4,109千円が発生した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	優良牛繁殖雌牛導入の実施 30頭	目 標	（ 繁殖雌牛導入実施 ）	（ 優良牛繁殖雌牛導入の実施 ）	（ 優良牛繁殖雌牛導入の実施 ）	（ 30頭 ）		
		実 績	繁殖雌牛導入実施	優良牛繁殖雌牛導入の実施	優良牛繁殖雌牛導入の実施	24頭		
達成状況説明	・優良牛繁殖雌牛導入の実施30頭を目標に事業を進めたが、事業執行時において導入希望者が当初予定者より減ったことにより導入率が80%に減少した。 ・和牛生産の安定を図るため、優良繁殖雌牛の導入にかかる費用の一部を実施したことにより、老廃牛の更新が図られ本町の畜産振興及びの農家所得の向上が図られた。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 109%以上	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ 109%以上 ）	（ ）	
		実 績				111%		
	【参考指標】 優良牛繁殖雌牛導入率	目 標	（ ）	49%	（ 45% ）	（ ）	（ ）	
		実 績		45.8%	61.6%			
	進捗状況説明	・導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合109%以上を目標に事業を進めた。 ・優良母牛から生まれた子牛の平均価格が709, 695円に対しそうでない子牛の平均価格が637, 970円となり成果目標の109%を達成することが出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・これまで本事業を活用し導入促進を進めてきたが、導入後において不妊及び病気等の事例が見受けられる。 ・畜産農家の高齢化が進むとともに、過疎化も進んでいる。	・より優良な優良繁殖雌牛導入を図るため、不妊等の事例が生じた地域からの導入中止などを検討する必要がある。 ・島内外から次世代の担い手を積極的に育成することが極めて重要である。
今後の取り組み方針		
・より優良な優良繁殖雌牛導入のため、適切な導入場所等の情報を収集するため、近隣の市町の畜産組合やJAおきなわ等との連携強化を図り、与那国島の環境や経営形態に適した優良繁殖雌牛の確保に取り組む。 ・畜産農家の減少に歯止めをかけ安定的な子牛生産を目指すため、担い手の育成へに取り組む必要がある。そのためにも、島内外の畜産業に関心のある人材に当該事業やその他の新規就農支援事業等の情報を的確に発信し、次世代の担い手確保に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>24,993</td><td>10,891</td><td>8,712</td><td>2,179</td><td>14,102</td></tr></table> 与那国町 10,891千円 補助金 10,891千円 沖縄県農業協同組合与那国支店 10,891千円 和牛生産を推進するため繁殖雌牛の導入にかかる補助金 受益者負担分 (交付対象外経費) 14,102千円 (1頭当り1/2補助)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	24,993	10,891	8,712	2,179	14,102
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
24,993	10,891	8,712	2,179	14,102										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、農協を窓口して畜産農家を対象としていることから、支出先として妥当であると考え。 ○子牛価格の高騰が続く中で予算規模については、妥当な金額であったと考える。 ○受益者負担については導入牛価格の1/2を負担額として決定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	2-②		農水産物輸送コスト負担軽減事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－（7）－エ	
担当部課名	産業振興課 農林水産班			事業実施 （予定）年度	平成25～33年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 Ⅲ－1－（6）	
事業内容	与那国町は、離島のさらに離島であるが為、地理的不利性を解消し、農水産業の活性化を図るため、与那国町漁業協同組合が出荷する生鮮水産物及び農業協同組合、農業生産法人、その他団体が出荷する野菜、果樹、薬用作物の沖縄県内への空路輸送料に対し支援を行う。									
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）									
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他（ ）									
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,528	5,000	2,128	2,128	4,000			
		(b) 予算現額	2,374	2,355	2,128	3,308	8,000			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,154	▲ 2,645	0	1,180	4,000			
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－			
		A. 計 (b+d)	2,374	2,355	2,128	3,308	8,000			
	B. 執行済額		2,374	2,355	2,128	2,562	3,632			
	うち交付金充当額		1,899	1,884	1,702	2,049	2,906			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	77.4%	45.4%			
予算の状況の説明		農産物の生産量が増加したため6月補正で予算額4,000千円を増額したが、生成水産物(カジキマグロ)の漁獲量が前年度より10パーセント減少したことにて不用額4,368千円が生じた。								
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況						
				26年度	27年度	28年度	29年度			
	生鮮水産物の空路輸送費支援の実施	目 標	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)				
		実 績	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助				
	農産物の空路輸送費支援の実施	目 標	()	()	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)				
		実 績			空路輸送費補助	空路輸送費補助				
達成状況説明	生鮮水産物・農産物(野菜、果樹、薬用作物)の県内の空路輸送費補助を実施し、これまで輸送費が負担となり出荷されなかった生鮮水産物・農産物(野菜、果樹、薬用作物)の出荷が増加し、漁業者及び農業者の負担軽減及び経営安定が図られた。									
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)		
	①生鮮水産物:出荷量に占める沖縄本島への出荷割合:32.0%	目 標	()	(26トン)	(40トン)	(出荷割合 32%)	()			
		実 績		38トン	42トン	出荷割合 24%				
	②農産物:出荷量に占める沖縄本島への出荷割合:65.0%	目 標	()	()	(21トン)	(出荷割合 65%)	()			
		実 績			3トン	出荷割合 75%				
	進捗状況説明	・生鮮水産物の目標値32%に対し24%となった要因は、漁獲量(カジキマグロ)の減少による出荷割合の減少である。 ・農産物(薬用作物)の出荷目標が達成できた要因は、台風等の被害による被害が減少し生産量が増加したことが大きな要因である。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・生鮮水産物については、気象状況や水産資源の減少による漁獲量の変動が有ることから目標の達成に至っていない。 ・農産物については、薬用作物のみの実績となっており、他野菜類の生産量の増加を図る必要がある。	・冷凍設備(プロトン冷凍機)を活用し、生鮮鮮魚の安定的な確保を図る必要がある。 ・農作物(野菜、果樹)については、現在整備中のビニールハウス等を活用した生産体制の整備を進めると共に安定的な生産物の確保をはかっていく必要がある。
今後の取り組み方針		
・今年度において未達成であった生鮮水産物の目標達成に向け、冷凍設備(プロトン冷凍機)を活用した生鮮水産物の安定確保を図り、漁協運営状況、出荷状況等の支援を実施し事業効果の発現に取り組む。 ・農産物については、ビニールハウスを活用した野菜類の生産量の安定的な生産を図り、更なる事業効果の発現に取り組んで行く。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,632	3,632	2,906	726	0

与那国町
3,632千円

補助金
3,632千円

与那国町漁業協同組合
2,041千円

農業生産法人
与那国薬草園(株)
1,591千円

生鮮魚の沖縄本島へ航空路輸送費にかかる補助金

薬用作物の沖縄本島へ航空路輸送費にかかる補助金

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、漁業協同組及び農業生産法人を対象としていることから、支出先として妥当であるとする。 ○生鮮水産物の漁獲高の減少に伴う不用額が生じているが、予算規模については妥当であったと考えている。 ○受益者負担については輸送実績を持って決定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-③	与那国町漁業担い手育成プラン実施事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－エ 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化		
担当部課名	産業振興課 農林水産班	事業実施（予定）年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（6）		
事業内容	与那国町の漁業従事者団体に支援を行い、新規・既存漁業者に漁業設備の貸出をすることで漁業従事者の維持確保を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	40,000	—	24,000	48,000		
		(b) 予算現額	69,966	—	24,000	48,582		
		(c) 増減額（b-a）	29,966	—	0	582		
		(d) 繰越額	—	41,599	—	—		
		A. 計（b+d）	69,966	41,599	24,000	48,582		
	B. 執行済額		28,367	35,274	21,144	48,582		
	うち交付金充当額		22,693	28,219	16,915	38,866		
	次年度繰越額		41,599	0	0	0		
	執行率（％）（B/A）		40.5%	84.8%	88.1%	100.0%		
予算の状況の説明		中古船購入価格が当初見積額より増額となり流用で予算額582千円を増額した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	漁業従事者団体が、操業に必要な漁船等を新規・既存漁業者に貸し付ける場合の購入に対し支援の実施	目 標	（ 漁船等の購入及び貸付の実施 ）	（ 漁船等の購入及び貸付の実施 ）	（ 漁船等の購入及び貸付の実施 ）	（ 漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施 ）		
		実 績	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成状況説明	漁業従事団体が貸し付けるための船舶、エンジン及び装備品の購入に対し補助を行った。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（25年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（30年度）
	漁業経営の安定確保	目 標	（ ）	（ 32人 ）	（ 32人 ）	（ 漁業経営の維持確保 ）	（ ）	
		実 績		31人	32人	漁業経営の維持確保		
	既存漁業従事者数の維持確保	目 標	（ 32人 ）	（ ）	（ ）	（ 32人 ）	（ 33人 ）	
		実 績				32人		
	進捗状況説明	平成29年度は、新規就業者1人が増加したが、既存漁業者1人が死亡したため、従事者数は前年度と同数となった。今後の推移としてIUターン者も見込まれており、本事業を継続的に推進することで新規就業者及び既存漁業従事者の維持確保を図り漁業経営の安定化に繋げる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・中古船購入価格が当初見積額より増額となったため、予算の不足が生じた。	・導入予定の漁業設備の購入価格調査を十分に行う。
今後の取り組み方針		
・漁業協同組合と導入予定設備等の価格調査を十分に行い、適切な予算執行に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
60,728	48,582	38,866	9,716	12,146

与那国町
48,582千円

補助金
48,582千円

与那国町漁業協同組合
48,582千円

（中古船、エンジン取替及び
装備品購入にかかる補助金）

（受益者負担分
（交付対象外経費）
12,146千円(受益者負担
20%)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、漁業従事団体を対象としていることから、支出先として妥当であると考え る。 ○見積等を徴収し、予算規模を決定しており妥当であ ったと考えている。 ○受益者負担については事業費の20%負担してお り、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必 要なものなのか等について額の確定時において支出 等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	与那国町工芸館施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－イ			
	総務財政課 交流推進班		事業実施 (予定)年度		平成29～30年度	県産品の販路拡大と地域プラン の形成		
担当部課名				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－9			
事業内容	本町を代表する伝統工芸品の一つである「花織り」の知名度向上や後継者育成を図り、商工振興に資することを目的として、情報発信や織物体験等の各種取り組みの拠点となる伝統工芸館を整備する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☐ 後年度(年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,000					
		(b) 予算現額	4,000					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	-					
		A. 計 (b+d)	4,000					
	B. 執行済額		3,996					
	うち交付金充当額		3,196					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		99.9%					
	予算の状況の説明		予算は、計画のとおり執行されており適正な予算規模であった。不用額4千円は入札残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	・基本計画策定	目 標	(基本計画策定)	()	()	()	()	
		実 績	基本計画策定完了					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	達成 状況 説明	・与那国町伝統工芸館建替え基本計画検討委員会を立ち上げ、3回にわたり関係機関との検討を行い、基本計画策定を完了した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
	・基本計画策定完了	目 標	()	(基本計画策定)	()	()	()	
		実 績			基本計画策定完了			
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗 状況 説明	・検討委員会で、各関係機関と先進地事例を元に本町のニーズに見合った基本計画を策定した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本町伝統織物「花織り」の後継者育成や県内外へPR、情報発信など課題がある。	・基本計画策定に伴い今後施設の整備と併せて運営体制(管理職及び事務職の充実)の強化を図りつつブランド強化やPRIにつなげる。
今後の取り組み方針		
・基本計画を基に施設を整備工事し、併せて運営体制の強化を図り、伝統継承やPR、情報発信を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
与那国町 3,996千円 委託費 3,996千円 株式会社国建 3,996千円 ・与那国町伝統工芸館建替え基本計画策定業務委託 <table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>3,996</td><td>3,996</td><td>3,196</td><td>800</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,996	3,996	3,196	800	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,996	3,996	3,196	800	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札にて選定されており、妥当であったと考えている。 ○不用額はあったものの入札残によるものであり適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	家庭学習支援モデル事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－イ	
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	生涯学習社会の実現	
事業内容	小中学生を対象とする家庭学習支援のため、既存のWeb会議システムを用いたオンライン双方向授業を行う「町営学習塾」を開設し、都市部との教育環境格差を解消し、将来、本町の地域活性化の担い手となる子供たちの学力向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	16,300	16,629	18,249	18,249	18,223
		(b) 予算現額	15,239	16,229	18,249	17,549	17,273
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,061	▲ 400	0	▲ 700	▲ 950
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	15,239	16,229	18,249	17,549	17,273
	B. 執行済額		15,239	16,229	16,605	16,786	16,677
	うち交付金充当額		12,191	12,983	13,283	13,428	13,341
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	91.0%	95.7%	96.5%
予算の状況の説明		委託業務にて入札残が発生したことや予定していた消耗品の数量が減ったことにより、12月補正で予算額950千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			基準値 (H23年度)	27年度	28年度	29年度	
	学習塾受講率(中学生) 60%	目 標	()	(60%)	(60%)	(60%)	
		実 績	40%	36%	32%	49%	
	学習塾受講率(小学生) 60%	目 標		60%	60%	60%	
		実 績	44%	20%	24%	43%	
達成状況説明	事前説明会、ポスターや保護者へ塾のお知らせを送るなどの広報活動に力を入れたことで受講率は前年度より大幅に伸びたが目標達成には到達できなかった。原因として考えられるのは遠方地域の対象者の参加が少ないためと考えられる。(塾近隣児童生徒の参加率 小学校:70% 中学校:56% 遠方児童生徒参加率 小学校:5% 中学校:27%)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 ()
	月例学力検査(年4回実施)にて、各学年の年間平均偏差値50の達成割合 中学校:19. 0%以上	目 標	()	(19.0%以上)		()	()
		実 績		16%			
	月例学力検査(年4回実施)にて、各学年の年間平値50の達成割合 小学校:33. 3%以上	目 標	()	(33.3%以上)		()	()
		実 績		40%			
	進捗状況説明	今年度から塾で開催している月例テストの結果を事業効果の検証に採用し、より正確な塾の学力向上効果の検証を図った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・塾がある地域から遠方に住んでいる入塾対象の児童生徒の通塾率が悪い ・同学年でも学力の差が大きく開いており、「授業がわからない」「授業がかんたんすぎる」という理由で授業に集中できてない受講生が増えてきている。	・遠方地域の受講対象者の入塾率が少ない原因の調査を行い、入塾率向上に向けての対策を行う。 ・学年で統一した授業ではなく、ある程度学力を考慮した学力別の授業を行う。
今後の取り組み方針		
・町営塾を引き続き実施し、本町の子ども達の家庭学習の支援に取り組むとともに、入塾率の向上を図るために入塾対象学年の保護者向けのアンケート調査を行い特に遠方地域の子どもの入塾率の低い原因を調査する。遠方であるため通塾が困難という回答割合が高かった場合は送迎手段の確保または遠方地域への塾教室の開設など遠方地域の通塾対策を行う。 ・子ども達の学力を考慮し、今までの学年別の授業方法ではなく習熟度別の授業を行うことで学力の向上を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>16,677</td><td>16,677</td><td>13,341</td><td>3,336</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 16,677千円 委託料 12,434千円 株式会社 フィオレ・コネクション東大NETアカデミー 12,435千円 (与那国町家庭学習支援モデル事業にかかる委託業務) 賃金 2,247千円 学習補助員(4人) 2,248千円 (与那国町家庭学習支援モデル事業にかかる学習補助員) 会場使用料 1,282千円 与那国町観光協会(指定管理者) 1,282千円 (与那国町家庭学習支援モデル事業にかかる会場使用料) 事務費 714千円 (需用費、役務費、負担金)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	16,677	16,677	13,341	3,336	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
16,677	16,677	13,341	3,336	0										
資金の 使途の 点検・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は企業組織、実績、知識等を勘案した上、指名競争入札によりで選定している。また、学習支援員の賃金については、与那国町賃金職員雇用管理規程に基づき確認の上で支出しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行額に減額があったもののほぼ適正規模だと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	与那国町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②		教育諸活動助成事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－（2）－イ		
						生涯学習社会の実現		
担当部課名	与那国町教育委員会　総務課		事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－（1）		
事業内容	町内の児童生徒の各種大会派遣費（航空運賃等）を支援することにより、与那国に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会を提供し、本町の未来を拓く子供たちの能力向上を図る。							
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）							
実施方法	□直接実施　□委託　　■補助　　□負担　　□その他（　　）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,000	12,946	8,000	10,000	12,000	
		(b) 予算現額	5,297	9,278	10,101	12,900	16,320	
		(c) 増減額（b-a）	▲ 703	▲ 3,668	2,101	2,900	4,320	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計（b+d）	5,297	9,278	10,101	12,900	16,320	
	B. 執行済額		5,297	9,278	9,586	12,499	14,826	
	うち交付金充当額		4,237	7,422	7,668	9,995	11,860	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0％	100.0％	94.9％	96.9％	90.8％	
予算の状況の説明		予定していた大会数を上回る派遣を実施した事により12月補正で予算が当初計画より4,320千円増額となったが、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	各種大会派遣の実施	目 標	（ 各種大会派遣 の実施 ）	（ 各種大会派 遣の実施 ）	（ ）	（ ）		
		実 績	派遣回数59回	派遣回数71回				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成 状況 説明	町内5校の児童生徒を陸上・卓球・バドミントンのスポーツ系の大会や、英語スピーチコンテスト・吹奏楽祭・地区中学校文化祭などの文化系の大会など、各種大会へ派遣した。派遣回数は前年度59回に対して大きく増加した。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （23年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	各種大会派遣人数（H29年度 450人）	目 標	（ 400人 ）	（ 330人 ）	（ 390人 ）	（ 450人 ）	（ ）	
		実 績		414人	525人	679人		
	【H30成果目標】 対象児童生徒の視野が広がったか（80％以上）を含め、児童生徒の保護者に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。		目 標					80％
	進捗 状況 説明	平成29年度は前年度より延べ100名以上多い679人の児童生徒が貴重な経験を得ることができた。目標を達成することができた要因としては、派遣回数の増加があげられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・派遣費の助成事業が広く周知され、利用回数及び人数が伸びている。今後も児童生徒の視野を広げるため大会の参加を促す。	・対象児童生徒の視野を広げるため、スポーツ活動だけでなく文化活動も含めた幅広い分野での活動を教育委員会として提案することにより参加を促し、引き続き、助成事業に取り組む。
・与那国町に住む児童生徒の多様な能力を発揮し、視野を広げる機会を提供するため、スポーツ活動だけでなく文化活動も含めた幅広い分野での活動を教育委員会として提案することにより参加を促し、継続的に助成を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>14,826</td><td>14,826</td><td>11,860</td><td>2,966</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 14,826千円 補助金 14,826千円 町内小中学校(5校) 各種大会等派遣助成金 14,826千円 各種大会等派遣費にかかる助成金(各種大会派遣旅費)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,826	14,826	11,860	2,966	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,826	14,826	11,860	2,966	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○児童生徒派遣費等補助金交付要綱により、派遣大会及び派遣対象児童生徒を確認の上で決定しており、支出先の選定方法は妥当であったと考えている。 ○予算規模は、補正にて予算増があったが、適切である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-③	地域国際交流事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－ア		
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	本町の姉妹都市である台湾・花蓮市への小学生のホームステイを行い、島の次世代を担う少年少女に異文化交流と体験学習をさせることにより、国際的な広い視野と高い語学力を持つ人材の育成を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,269	3,172	3,432	3,002	3,634	
		(b) 予算現額	3,132	2,638	3,230	3,002	3,531	
		(c) 増減額（b-a）	863	▲ 534	▲ 202	0	▲ 103	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計（b+d）	3,132	2,638	3,230	3,002	3,531	
	B. 執行済額		3,132	2,638	3,230	2,897	3,531	
	うち交付金充当額		2,505	2,111	2,583	2,317	2,825	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0%	100.0%	100.0%	96.5%	100.0%	
予算の状況の説明		委託業務にて入札残が発生したことにより、12月補正で予算額103千円を減額した。						
活動目標（指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	台湾「花蓮市」へホームステイの実施	目 標	台湾「花蓮市」 （へホームステイの 実施	台湾「花蓮 市」へホーム ステイの実施	台湾「花蓮 市」へホーム ステイの実施	台湾「花蓮 市」へホーム ステイの実施		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
	異文化に対する理解力、適応力、外国人とのコミュニケーション能力を備えた人材の育成（関連活動の実施）	目 標	（ ）	（ 関連活動の 実施 ）	（ 関連活動の 実施 ）	（ 関連活動の 実施 ）		
		実 績		未実施	未実施	実施		
	学力向上推進実践報告会：ホームステイ報告	目 標	（ ）	（ 1回 ）	（ 1回 ）	（ 1回 ）		
		実 績		1回	1回	1回		
	達成 状況 説明	出発予定日の当日に台風の影響により飛行機が欠航になり大幅なスケジュール変更を余儀なくされ、台湾花蓮市へのホームステイと派遣時の現地学校との交流会などは当初の予定通り実施したが、帰国後の成果振り返りの時間が十分に取れなかった。報告会に関しては派遣児童たちに台湾派遣の感想レポートを作成してもらい会場に展示し、報告発表については代表者のみで行った。						
	成果目標（指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度 ）	27年度	28年度	29年度
台湾花蓮へのホームステイの実施		目 標	（ ）	（ 13人 ）	（ 15人 ）	（ 16人 ）	（ ）	
		実 績		14人	14人	16人		
【H30成果目標】 帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか（80％以上）を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。			目 標				80%	
進 捗 状 況 説明		町内の3小学校6年生児童16名を対象に台湾花蓮市へのホームステイ派遣を実施した。国際交流の充実を更に図るために本年度は児童が現地受け入れ先の家に滞在する期間を1日増やした。結果、前年度よりも現地の人との交流を通して交友関係を更に深めることができ派遣児童たちに国際交流の楽しさを体験してもらい事業目的である「国際的な広い視野と高い語学力を持つ人材の育成」に繋がった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・派遣対象が小学生であるため、事業を通して国際的な感覚の成長が図られているのかを、本人たちの意識調査以外の方法により、新たな視点で検証する必要がある。 ・事業を通しての花蓮市の人との交流が一過性になっている。	・派遣対象者への意識調査のほか、派遣児童の担任や家族など普段から身近に接している第三者に対しての意識調査を行う。 ・現地に児童を派遣しての交流だけでなく交流の事前もしくは事後に現地との交流を持てる機会を作る。
今後の取り組み方針		
・台湾花蓮市への児童派遣を継続するとともに、児童だけでなく保護者等の身近にいる第3者への事後アンケートを実施し、派遣前と派遣後で児童の国際感覚に成長があるのかを検証する。 ・平成30年度は、現地交流の前後などでICTを活用しテレビ会議システム等で現地との交流を図ることができるように教育委員会、町内小学校、台湾花蓮市の受け入れ小学校と計画を策定し、平成31年度以降の度国際交流に更に付加価値をつけていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>3,531</td><td>3,531</td><td>2,825</td><td>706</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 3,531千円 → 委託料 3,531千円 → 株式会社 中央ツーリスト 3,531千円 (平成29年度台湾花蓮県小学校等交流事業にかかる委託業務)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,531	3,531	2,825	706	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,531	3,531	2,825	706	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は企業組織、実績、知識等を勘案した上、指名競争入札によりで選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行額に減額があったもののほぼ適正規模だと考える。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-④	与那国町ジュニア海外語学研修派遣事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（12）－オ			
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	交流と貢献による離島の 新たな振興			
事業内容	町内の中学生を対象として、欧米への語学研修（短期ホームステイ）の支援を行い、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成及び町の将来を担う人材の育成を図る。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）							
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	1,794	2,676	3,116	3,120	2,550	
		(b) 予算現額	2,327	3,042	2,868	2,542	2,800	
		(c) 増減額（b-a）	533	366	▲ 248	▲ 578	250	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計（b+d）		2,327	3,042	2,868	2,542	2,800	
	B. 執行済額		2,327	3,042	2,867	2,465	2,729	
	うち交付金充当額		1,862	2,433	2,293	1,972	2,183	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0%	100.0%	100.0%	97.0%	97%	
予算の状況の説明		・委託費の積算を再考した結果、オリエンテーションに係る旅費経費が不足したため流用で予算額250千円を増額した。 ・当初計画していた事業内容はすべて実施した活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	・派遣後、アンケートによる意識調査（中学生4名派遣）	目 標	（ 実施 ）					
		実 績	実施					
	・異文化に対する理解力、適応力、外国人とのコミュニケーション能力を備えた人材の育成（関連活動の実施）	目 標	（ 関連活動の実施 ）					
		実 績	関連活動の実施					
達成状況説明	・アンケート調査では派遣後の生徒を対象に語学派遣を通して国際的な視野が広がったのかを調査した。派遣生徒4名からは派遣で体験したことを将来活かしていきたい等、事業の目的としている意見が上がっていた。 ・派遣事業の関連活動としては、帰国後に報告書の作成と学校の文化祭での体験報告会を実施し学校や地域住民への事業PRができた。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	海外語学研修派遣事業の実施	目 標	（ ）	（ アメリカ 2人 イギリス 2人 ）	（ アメリカ4人 ）	（ アメリカ4人 ）	（ ）	
		実 績			アメリカ4人	アメリカ4人	アメリカ4人	
	【H30成果目標】 帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか（80％以上）を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。		目 標					80%
	進捗状況説明	選抜面接試験を突破した4名を対象にアメリカのシアトルでの2週間の語学研修派遣を実施した。 ホームステイや現地学校での語学学習、グループレクレーションを通して異文化体験、コミュニケーションのとり方を経験することにより国際感覚の育成を促し、将来の国際感覚を持った人材育成を図ることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・派遣対象が中学生であるため、事業を通して国際的な感覚の成長および将来の人材育成が図られているのかを、本人たちの意識調査以外の方法により、新たな視点で検証する必要がある。	・派遣対象者への意識調査のほか、派遣児童の担任や家族など普段から身近に接している第三者に対してアンケートを取り意識調査を行う。
今後の取り組み方針		
・英語圏への語学研修派遣を引き続き実施し国際感覚を身に着けた人材育成に取り組むとともに、事業効果を検証するために派遣後の生徒および日頃身近にいる第3者の保護者、学校職員へのアンケート調査を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>2,729</td><td>2,729</td><td>2,183</td><td>546</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 2,729千円 委託料 2,729千円 株式会社 沖縄タイムスサービスセンター 2,729千円 町内中学生海外語学研修派遣にかかる委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,729	2,729	2,183	546	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,729	2,729	2,183	546	0										
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は企業組織、実績、知識等を勘案した上、指名競争入札によりで選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行額に減額があったもののほぼ適正規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町									
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	7-①		少子高齢化対策事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－イ	
担当部課名	長寿福祉課 福祉班			事業実施 (予定)年度	平成24～33年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－4－(1)	
事業内容	本町唯一の医療機関である与那国診療所には、各専門医がないため、出産又は専門医療を受けるためには、島外の石垣島へ通院する必要がある。そのため妊娠から出産までに必要となる渡航費等の費用について支援を行う。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			(a) 当初予算額		1,507	1,507	1,507	1,551	3,900	
			(b) 予算現額		1,826	2,133	1,507	2,851	955	
			(c) 増減額(b-a)		319	626	0	1,300	▲ 2,945	
			(d) 繰越額		—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)		1,826	2,133	1,507	2,851	955			
	B. 執行済額		1,826	2,133	936	2,480	955			
	うち交付金充当額		1,461	1,461	748	1,983	764			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	62.1%	87.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・平成28年度は陸上自衛隊の配備等により人口が急増したことに伴い、事業費を増額することとなったことから、平成29年度も引き続き人口増を見込み予算を増額したが、年度途中に宿泊費に関する補助規定の見直しを行ったことから12月補正により事業費を2, 945千円減額することとなった。(＊宿泊費を対象外として単費対応へ変更)								
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況					
					26年度	27年度	28年度	29年度		
	・妊産婦定期健診の実施 ・妊産婦一人当たり受診回:12回/人				目 標	(渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)	
					実 績	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助	
					目 標	()	()	()	()	
					実 績					
達成 状況 説明	・母体の心身の変化が著しい時期である妊娠、出産期において、渡航費補助を継続し経済的負担の軽減を図ることで、妊産婦の定期健診を実施することができた。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	支援人数 20名				目 標	()	(20名)	(11名)	(20名)	()
					実 績		10名	29名	31名	
	【H30成果目標】 島外での妊婦健診等医療サービスが必要な方のうち、支援を受けて渡航した方の割合				目 標					100%
	進 捗 状 況 説 明	・人口増加が落ち着いたことで妊産婦の人数も昨年度とほぼ同様となった。 ・第二子以降の出産が半数以上であり、転入者の妊産婦が増加していることから、事業の継続的な実施により定住環境の改善への取り組みが進んだと判断している。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・高度周産期医療の必要がある場合の追加支援策への取り組みの遅れから、通常出産では対応が困難な事例の妊産婦の精神的不安や経済的不安が未だ解決できていないことは課題である。	・通常出産では対応が困難な事例の妊産婦はさらに経済的・精神的負担が増えることから、早急に対象となる妊産婦への追加支援策を実施する必要がある。
今後の取り組み方針		
・通常出産では対応が困難な事例に対応するため、平成30年度より、高度周産期医療の必要があり、石垣島での出産が困難な状態にあると認めた場合に限り、沖縄本島で出産待機する際の石垣島発の航空券及び宿泊費を助成対象とすることに加え、生まれた児が、新生児集中治療室で医療を受けていた期間（30日を限度）の宿泊費を対象とすることで、出産後に起こり得る精神的不安や経済的不安にも対応していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>955</td><td>955</td><td>764</td><td>191</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	955	955	764	191	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
955	955	764	191	0										
与那国町 955千円 補助金 955千円 妊婦・出産旅費助成金 955千円 妊婦・出産旅費にかかる助成金														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・妊産婦通院費助成金交付金申請により、対象者及び実績を確認の上で決定しており、妥当であると判断している。 ・執行額に減額があったものの、ほぼ規模に適しており適切であった。 ・費目・使途については、事業内容に即した適切な内容であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-①	与那国方言保存継承支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ア		
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施 （予定）年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認 できる環境づくり		
事業内容	2009年UNESCOに消滅危機言語として登録された与那国語の記録保存と伝承、再活性化を目的とし、主として辞書作成を行う。並行して、保存継承のための企画を展開して衰退しつつある言語の使用を推奨する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（31年度）							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,310	2,310	6,766	9,878	7,403	
		(b) 予算現額	1,219	6,000	5,115	8,096	7,403	
		(c) 増減額（b-a）	▲ 1,091	3,690	▲ 1,651	▲ 1,782	0	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計（b+d）	1,219	6,000	5,115	8,096	7,403	
	B. 執行済額		1,219	6,000	3,933	7,433	7,328	
	うち交付金充当額		975	4,800	3,146	5,946	5,863	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0%	100.0%	76.9%	91.8%	99.0%	
予算の状況の説明		・事業執行率が99%となり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	収集した語彙に実践的な用例を付与し、辞書項目を充実させる。	目 標	（ 講演会の実施 ）	（ 専門家の雇用 ）	（ 専門家の雇用 ）	（ 専門家の雇用 ）		
		実 績	講演会の実施	専門家の雇用	専門家の雇用	（ 専門家の雇用 ）		
	【参考指標】 スンカニ大会を開催する。	目 標	（ ）	（ 方言イベント2回 ）	（ スンカニ大会開催 ）	（ スンカニ大会開催 ）		
		実 績		（ 方言イベント1回 ）	（ スンカニ大会開催 ）	スンカニ大会開催		
達成状況説明	聞き取り調査（38回実施）で得た語彙資料について、嘱託員2名（言語学者及び母語話者）が専門的な観点から整理・分類し、それをもとに実践的な用例を作成した。また、不足していた民俗語彙について集中的に調査を実施したことで辞書項目の充実を図った。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （31年度）
	辞典原稿素案の完成	目 標	（ ）	（ 素案完成 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		素案完成				
	【H31成果目標】 与那国語辞典を活用した授業や学習会等により、与那国語への理解が深まったか（80%以上）を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標						80%
		進捗状況説明	これまでに収集した約2,000語の語彙を整理・分類し収集し、そのうち1,100語について例文を付与し、素案原稿を完成させた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	素案原稿の例文はおもに母語話者の嘱託員が作成したが、与那国語は、年代、世代、地域、性別、個人の価値観、経験等によって多様に変化するため、一般的な言い回し、表現となっていない可能性に留意する必要がある。	素案原稿の例文については、自然な言い回しになっているか確認するため、与那国語辞典編集委員会を開催し他の母語話者(与那国語辞典編集委員10名)による審議を経て、辞典原稿を完成させる。そうすることで、より多くの与那国町民に受け入れられる辞典を作ることができる。
今後の取り組み方針		
素案原稿について、平成30年8月まで月2回の編集委員会を実施し、母語話者の委員10名による内容の確認、審議を行う。年度内に町民が主体的に与那国語を学ぶことができる継承に力点を置いた用例豊富な与那国語辞典作成を発刊する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>7,329</td><td>7,329</td><td>5,863</td><td>1,466</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 7,329千円 報酬 5,171千円 嘱託員(2名)5,066千円 委員(10名)105千円 (与那国方言辞典編集専門嘱 与那国辞典編集委員会委員) 賃金 826千円 賃金職員(1名)826千円 補助金 900千円 ドゥナンスンカニ大会実行委員会900千円 事務費 432千円 報償費・旅費・使用料					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,329	7,329	5,863	1,466	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,329	7,329	5,863	1,466	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ドゥナンスンカニ大会実行委員会からの補助金交付申請により事業内容を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。また、専門職の嘱託員については、町の規定に基づき適正に対応している。 ○執行額に減額があったもののほぼ適正規模だと考える。 ○費目・使途については事業、事業に必要な経費に適正に支出されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-①		安心・安全のまちづくり支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－イ		
						生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上		
担当部課名	長寿福祉課		事業実施（予定）年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		
			Ⅲ－4－（1）					
事業内容	就学前児童及び小学校3年生以下を対象として、教育課程に係る教育時間終了後に公共施設の一室を利用して、子どもにとって安心・安全な場所を設け、遊びの場を提供し、保護者の子育てを支援する。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）							
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,456	3,456	3,456	5,184	4,680	
		(b) 予算現額	3,848	3,983	5,032	5,538	5,346	
		(c) 増減額（b-a）	392	527	1,576	354	666	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計（b+d）	3,848	3,983	5,032	5,538	5,346	
	B. 執行済額		3,848	3,983	4,998	5,538	5,346	
	うち交付金充当額		3,078	3,186	3,997	4,430	4,276	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0%	100.0%	99.3%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・支援指導員の切り替えがあったため、12月補正で666千円が増となったが事業の達成状況を鑑み、予算は適正であったと考えている。						
活動目標（指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	子育て支援指導員の雇用 指導員雇用：3人	目 標	（ 2人 ）	（ 2人 ）	（ 3人 ）	（ 3人 ）		
		実 績	2人	3人	3人	3人		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成状況説明	子育て支援指導員3人を配置するとともに、公共施設の一室を利用して子どもにとって安心・安全な場所を確保し、保護者が安心して就労できる環境を整えた。							
成果目標（指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（30年度）
	・預かり人数 35名以上	目 標	（ ）	（ 利用者数 24人 ）	（ 27人 ）	（ 35名以上 ）	（ ）	
		実 績		32人（月平均）	39人（月平均）	33名（月平均）		
	【H30成果目標】 安心・安全に子供を預けることができ、育児に関する負担感が軽減されたと感じたか（80%以上）を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標					80%	
	進捗状況説明	・子ども達の放課後及び夏休み等に安全で生活できる場所を提供することができ、保護所の安定した就労も可能になり、与那国島で安心して子どもを生み育てる環境が整備された。預かり園児の条件は、保護者及び同居者が労働、疾病、入院等により、園児が教育時間終了後、降園しても家庭内保育が困難となる場合だが、今年度は対象となる園児が少なかったため目標値を下回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・安心・安全に子供を預ける環境を整備するため、保育士の質の向上を図る必要がある。 ・支援指導員が賃金職員であるため、職員の確保が難しくなっている。	・支援指導員の保育研修を行う。 ・賃金職員としてではなく、正規職員としての雇用が望ましいと考える。
今後の取り組み方針		
・支援指導員の保育研修(保育所・幼稚園の保育士との交換研修、外郭団体への研修)を行い保育士としての質の向上を図る。 ・賃金職員としての雇用体制では、支援指導員の確保が不安定であるため、確実な人員確保が図れる正規職員になるよう人事担当に要望する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,346</td><td>5,346</td><td>4,276</td><td>1,070</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 5, 346千円 賃金 5, 346千円 子育て支援指導員(3人) 5, 346千円 学童保育にかかる子育て支援指導員(臨時職員)の賃金					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,346	5,346	4,276	1,070	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,346	5,346	4,276	1,070	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支援指導員の選定については、保育士等資格保持者を優先に雇用を予定しているが、資格保持者がいないのでやむなく無資格者を雇用している。 ・1職員で管理できる範囲が15名程度であることから、40名程度の預かり規模から3人の指導員配置は適正であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成に必要な経費に支出されていることから適切である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		与那国町							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	8-①		公共交通路線支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－ウ			
						交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化			
担当部課名	総務財政課 交流推進班		事業実施 （予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－9－（1）		
事業内容	地方バス運営に必要な経費を支援することにより、生活路線バスの安定的な運営を維持し、定住するために必要な条件を整備すると共に、来島者の利便性向上も図る。								
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）								
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）								
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,000	3,000	3,000	4,552	4,552		
		(b) 予算現額	3,000	3,000	3,000	4,552	4,552		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0		
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-		
		A. 計 (b+d)	3,000	3,000	3,000	4,552	4,552		
	B. 執行済額		3,000	3,000	3,000	4,531	4,519		
	うち交付金充当額		2,400	2,400	2,400	3,625	3,614		
	次年度繰越額		0	0	0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.5%	99.3%		
	予算の状況の説明		・計画のとおり執行されており適切な予算規模であった。また、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度		
	公共交通路線バス運行費用への支援	目 標	（ 路線バス運行実施 ）	（ 路線バス運行実施 ）	（ 路線バス運行実施 ）	（ 運行支援 ）			
		実 績	路線バス運行実施	路線バス運行実施	路線バス運行実施	運行支援			
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）			
		実 績							
	達成 状況 説明	・公共交通路線バスの運行費用への支援を行い、観光客等及び地域住民の利便性向上を図り、定住するための必要な条件を整備をした。							
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）				基準値 （ 年度）	26年度	27年度	28年度
公共交通路線バス運行便数：2,555便 /8,111人		目 標	（ ）	（ 年間2,555便 /8,000人 ）	（ 年間2,555便 /8,500人 ）	（ 年間2,555 便/8,111 ） 人	（ ）		
		実 績		（ 年間2,531便 /8,111人 ）	（ 年間2,547便 /9,538人 ）	（ 年間2,546 便/9,306 ） 人			
【H30成果目標】 利便性の確保が図られたか（80％以上）を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目 標					80%		
進 捗 状 況 説 明		・路線バスの安定的な運航を維持し、運転が困難な高齢者や園児児童生徒及び来島者の利便性向上を図った。 ・一部目標（便数）に達成していな原因としては、台風襲来に伴う運休が発生したため。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光客数増加や町民の利用の多様化が課題となっていることから、ニーズに見合った路線の検討が必要である。	・利用者の多様化に伴い、路線及び運行時間の変更を行い安定的な公共交通の確保を図る。また、併せて事業効果の検証をアンケートを実施し地域振興につなげる。
今後の取り組み方針		
・安定的な運行やニーズに見合った路線に対応する。具体的には「バス対策会議」を開催し路線及び運行時間等の変更やバス車両の更新を実施する。また、併せて事業効果を検証するため利用者へのアンケートを実施する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,519</td><td>4,519</td><td>3,614</td><td>905</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 4,519千円 委託料 4,519千円 最西端観光 株式会社 4,519千円 （与那国町生活路線バスにかかる委託業務）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,519	4,519	3,614	905	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,519	4,519	3,614	905	0										
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○与那国町では現在、大型観光バス業務及びタクシー業務等を行っている事業者が1事業者しかいないため、その事業者と随意契約により委託契約を締結している。これまでの実績等も勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-②	離島食品・日用品輸送費等支援実証事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－イ		
担当部課名	総務財政課 総務班	事業実施（予定）年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9－（1）		
事業内容	離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島及び石垣島から与那国島へ輸送される食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,714	16,351			
		(b) 予算現額	9,714	16,351			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計 (b+d)	9,714	16,351			
	B. 執行済額		9,498	12,572			
	うち交付金充当額		7,598	10,057			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		97.8%	76.9%			
予算の状況の説明		不用額3,779千円は、見込みよりも事業への参加店舗が少なかったことによる。成果目標等達成状況を鑑みてほぼ適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	食品、衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援	目 標	輸送経費及び作業経費の支援	輸送経費及び作業経費の支援	()	()	
		実 績	輸送経費及び作業経費の支援の実施	輸送経費及び作業経費の支援の実施			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	航路事業者2社(合資会社 福山海運、崎原海運 有限会社)へ本事業の対象となる食品・日用品等の輸送費と輸送実績に応じた事務費(作業経費)の補助を実施したことで、島内小売店が販売する食品・日用品の価格が低減され住民生活を支援することが出来た。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（ 年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（30年度）
	沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差（沖縄本島を100とした場合の指数）の縮小（参考）H27指標：134.3程度	目 標	()	(100)	(100)	()	()
		実 績		126.1	133.1		
	【H30成果目標】生活必需品等の価格について沖縄本島を100とした場合の本町の指標における事業実施前との差 -8.2ポイント以下	目 標					-8.2
	進捗状況説明	・沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差がH27の134. 3ポイントからH29の時点調査において133. 1ポイントとなった。 ・区分別にみると、野菜・果物・肉類等は、事業開始前より下がっているが、飲料で格差が大きくなった。要因として、沖縄本島の基準としている店舗(かねひで・マックスバリュ・ユニオン等)において価格が下がっているにもかかわらず、当町の店舗で飲料に対する価格の値下げ幅が少なかった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・住民が生活するうえで、通常、必要となる食品及び日用品の輸送費等を支援することにより、食品及び日用品の価格を低減し生活コストの軽減を図ったが、価格表（定価・低減後の価格を記載）の表示がない等、各小売店でバラツキがあり、住民への実感度が伝わりにくかった。 ・基準としている沖縄本島の店舗（かねひで・マックスバリュ・ユニオン等）より高い店舗から仕入れている傾向がある。物価価格調査の結果でも、全体的に昨年より格差が大きくなっている。	・価格を低減した商品に価格表（通常価格・低減後の価格）の表示を徹底する。 ・仕入れ先の選定について検討する。
今後の取り組み方針		
・各店舗を定期的に巡回指導することにより、商品毎に価格表の設置（通常価格・低減後の価格を記載した価格表）の徹底するほか、次年度より、低減価格シールを作成し、各商品に貼り付けに取組む。（例：10円引き・20円引き・50円引き・100円引き等） ・基準としている店舗のかねひで・マックスバリュ等から仕入れすることができないか、参加店舗の経営者との協議を実施して仕入れ先の選定について検討する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>25,144</td><td>12,572</td><td>10,057</td><td>2,515</td><td>12,572</td></tr></table> 与那国町 12,572千円 → 離島食品・日用品輸送費等補助金 12,572千円 → 崎原海運有限会社 7,170千円 → 合資会社福山海運 5,402千円 ↑ ※交付金対象外経費 沖縄県直接支援分 12,572千円 食品、衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送費及び作業経費の支援					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	25,144	12,572	10,057	2,515	12,572
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
25,144	12,572	10,057	2,515	12,572										
資金の流 点検・ 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・航路業者は2社のみであり選定に問題はない。 ・執行率76.9%と、かなりの不要額が発生してしまったが、予算規模は事業に見合ったほぼ適正な規模である。 ・使途については、事業目的に則した適正な支出である。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那国町									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	9-①		防災安全基盤強化事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務財政課 総務班			事業実施 (予定)年度	平成29～32年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
事業内容	現在運用中の防災行政無線・消防救急無線のデジタルシステムを構築し、デジタルならではの機能拡張により在住者、来島者への広報の充実化及び災害時の不安解消を図る。									
効果発現年度	☐ 当年度 ☐ 後年度(年度)									
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		
			(a) 当初予算額	2,992						
			(b) 予算現額	2,992						
			(c) 増減額 (b-a)	0						
			(d) 繰越額	-						
			A. 計 (b+d)	2,992						
			B. 執行済額	2,916						
			うち交付金充当額	2,332						
			次年度繰越額	0						
			執行率 (%) (B/A)	97.5%						
		予算の状況の説明	当初計画、成果目標等達成状況を鑑みてほぼ適正であったと考えている。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況						
					29年度	30年度	31年度	32年度		
	与那国町無線通信システムのデジタル化 実施計画策定			目 標	(実施計画策定)	()	()			
				実 績	実施計画策定完了					
				目 標	()	()	()	()		
				実 績						
達成状況説明	当初計画のとおり、与那国町無線通信システムのデジタル化に向け「与那国町無線通信デジタル化実施計画」を策定することが出来た。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	32年度	
	与那国町無線通信システムのデジタル化 実施計画策定完了			目 標	()	(策定完了)	()		()	
				実 績		策定完了				
				目 標	()	()	()	()	()	
				実 績						
	進捗状況説明	与那国町無線通信システムのデジタル化に向け「与那国町無線通信デジタル化実施計画」を策定したことにより、与那国町無線システムのデジタル化に取り組むことが出来る状況となった。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現在のアナログ無線においては、設置から30年余りたっており、老朽化や、部品調達が難しい状態であるため、防災上の観点から、いち早く工事着工が望まれる。 ・工事計画（着工）にあたっては、現在のアナログ無線放送に支障が出ないようにする。	・デジタル化に向けた工事について速やかに実施出来るよう、必要な協議、検討を早い段階から検討する。 ・「与那国町無線デジタル化実施計画」を基本に、既存の設置場所付近で新規併設工事を行う。
今後の取り組み方針		
・関係機関との協議・検討を早期に実施し、円滑な工事着工を図る。 ・既存設備の設置場所を把握し、アナログ無線放送の支障が生じないよう工事を実施する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,916</td><td>2,916</td><td>2,332</td><td>584</td><td>0</td></tr></table> 与那国町 2,916 千円 委託料 2,916千円 株式会社環境設計 国建 2,916千円 与那国町無線通信システムデジタル化実施 計画作成委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,916	2,916	2,332	584	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,916	2,916	2,332	584	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、入札にて選定されており、妥当であったと考えている。 ○不用額は10%以内であった。予算規模は事業内容に見合ったほぼ適正な規模である。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、予算規模についても必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												